

自己チェックを活用した 安全指導手法

Instructing Techniques for Safety using a Self-check Questionnaire

【概要】

自己チェックを用いて運転士の心理特性を把握し、指導者・係長などが安全指導を行う手法を開発しました。用紙によるフィードバック、グループ・ミーティング、面談を通して、注意を集中する能力、注意のそれやすさ、上手に注意を割りふる能力のうち、本人が心配する特性に対して、自主的な工夫を促していくものです。

【特徴】

運転士がより安全に作業できるように指導するためには、やり方を一律に教えるだけでなく、本人が自主的に安全に対し取り組むことができるように支援していくことが求められます。継続的な面談によってそれができるように、自己チェックで本人の気づきを促し、グループ・ミーティングで自主的な工夫についての知見を増やす手順を組み込みました。

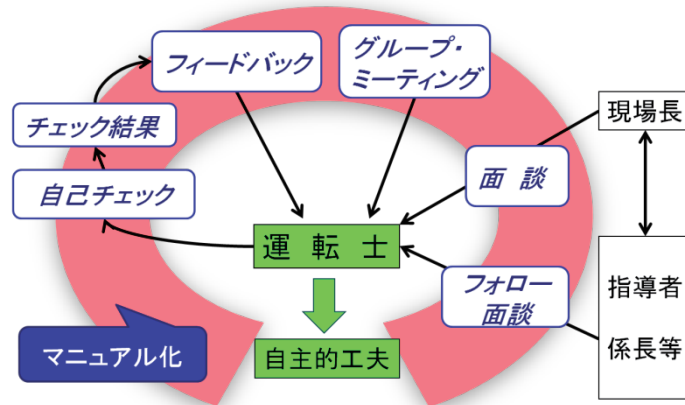






図 安全指導手法の概要

【用途】

新人運転士を対象とすると、導入がスムーズです。心理特性の解説において運転士の事例を用いていますが、事例を差し替えれば、他の職種でも対応可能です。

表1 手法の概要

項目	内容	目安時間
自己チェック(注) 	32の質問に自分がどの程度当てはまるかを5段階で回答する。質問例「自分自身の集中力は思い通りにコントロールできる」。	10分
フィードバック 	3つの心理特性(注意を集中する能力、注意のそれやすさ、上手に注意を割りふる能力)について、得意、中程度、苦手の3段階に評価した結果を返却する。	—
グループ・ミーティング 	前半は心理特性について事件事例を使って解説を行う。 後半は、類似の経験、事故防止の自主的工夫について討議し、発表する。	60分
面談(定期的繰り返し) 	本人が心配な特性について、今後、どのような工夫を行っていくか、それをどう支援していくかを相談する。	15分

注:大阪大学篠原准教授らの「日常的注意経験質問紙」をもとに作成

表2 事故防止効果の評価結果

(単位:人)

	役立つ	やや役立つ	あまり役立たない	役立たない	合計
フィードバック	37	47	7	1	105
グループ・ミーティング	28	21	6	0	55
面談	10	15	5	1	31

公益財団法人鉄道総合技術研究所
人間科学研究部 安全心理